「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料（小学校）

第３編　各活動・学校行事ごとの学習評価について（事例）

第１章　特別活動の学習評価を行うに当たっての基本的な考え方
１　評価の手順
２　評価体制の確立
３　指導と評価の計画の作成
４　多面的・総合的な評価の工夫
５　評価機会の精選
６　小学校児童指導要録における特別活動の記録

第２章　学習評価に関する事例について
１　特別活動の事例の特徴
２　各事例の概要について
事例及び参考資料

国立教育政策研究所
教育課程研究センター

第１章　特別活動の学習評価を行うに当たっての基本的な考え方

特別活動においては，第２編でも示したように，学習指導要領の目標及び特別活動の特質と学校の創意工夫を生かすということから，設置者ではなく，各学校が評価の観点を定めることとしている。

特別活動は，全校又は学年を単位として行う活動があり，学級担任以外の教師が指導することも多いことから，各学校には評価体制を確立し共通理解を図って，子供たちのよさや可能性を多面的・総合的に評価できるようにすることも求められる。

また，評価を通じて，教師が自己の指導の内容や方法，指導過程等を振り返り，より効果的な指導が行えるような工夫改善を図ることが求められる。

各学校においては，特別活動の特質を踏まえ，次のような評価の手順や留意点を参考にして，適切に評価を進めることが大切である。

１　評価の手順

①指導と評価の計画の作成	・特別活動の全体計画及び各活動・学校行事ごとの指導と評価の計画を作成する。
②評価のための基礎資料の収集	・計画に基づいて，評価のための基礎資料を収集する。
③評価の実施	・収集した資料を各学校で定めた所定の手続きにしたがって多面的・総合的に判断し，評価を行う。
④評価体制の改善	・評価結果を各学校における指導や評価体制の改善に生かす。

２　評価体制の確立

特別活動の全体計画及び各活動・学校行事ごとの指導と評価の計画を基に

学級活動において

主として学級担任が事前から事後の振り返りまでの児童の活動の様子から，積極的によさや可能性を見取るようにする。

児童会活動，クラブ活動，学校行事において

※評価に必要な資料を収集する方法を工夫するとともに，それらが学級担任の手元に届き，活用されるようにする。

学 級 担 任

学級担任以外の教師

※個々の児童の活動状況について，学級担任と担当する教師との間で情報交換を密にする。

※必要に応じて評価した結果を全教師で共有し，指導に生かすことができるようにする。

３　指導と評価の計画の作成

各活動・学校行事ごとの評価規準の作成

・各学校で評価規準を設定する際には，第２編を活用し，学級活動（１）（２）（３）の低・中・高学年の発達の段階，児童会活動，クラブ活動，各学校行事について，観点ごとに設定することが考えられる。

「目指す児童の姿」の設定

・１単位時間の指導計画においては，各活動・学校行事ごとに設定した評価規準に即して，事前・本時・事後における「目指す児童の姿」を，具体的に設定することが考えられる。その際，評価場面の重点化を図ることも考えられる。

各学校においては，各活動・学校行事ごとに指導と評価を適切に位置付けた計画を作成することが大切である。「学習指導要領第１章総則編第２（２）イ」において，

> 特別活動の授業のうち，児童会活動，クラブ活動及び学校行事については，それらの内容に応じ，年間，学期ごと，月ごとなどに適切な授業時数を充てるものとする

と示されたことを受け，それぞれの目標やねらいが十分達成できるように，よく検討して適切に授業時数を充てるようにする。

４　多面的・総合的な評価の工夫

特別活動においては，児童が自己の活動を振り返り，新たな目標や課題がもてるようにする評価を進めるため，活動の結果だけでなく，活動の過程における児童の努力や意欲などを積極的に認めたり，児童のよさを多面的・総合的に評価したりすることが大切である。

児童一人一人を評価する方法としては，教師による観察が中心となるが，チェックリストや児童自身の各種記録の活用など，評価方法の特質を生かして評価するようにする。特に，児童が「活動に見通しをもって取り組み，活動を振り返って次の課題解決につなげたり，改善したりする」等，自主的，実践的に取り組むことができるようにするために，児童の学習活動として，自己評価や相互評価を行うことも多い。したがって，観察による教師の評価と併せて，児童自身による評価を参考にすることも考えられるが，児童の評価をそのまま教師の評価とすることのないよう配慮する必要がある。

また，児童一人一人のよさや可能性を生かし伸ばす点から，児童のよりよい姿が見られた際には，随時，当該児童に伝えたり，学級や学年，学校全体に紹介したりすることが考えられる。

５　評価機会の精選

特別活動は，活動の積み重ねにより年間を通して児童の資質・能力の育成を図るものである。すべての評価の観点について，事前・本時・事後の一連の学習過程の中で評価できるようにしたり，各活動・学校行事における顕著な事項は補助簿を活用して記録したりしておき，一定期間に実施した活動や学校行事を評価規準に基づき，まとめて評価するなど，効果的で効率的な評価と

なるよう配慮する必要がある。例えば学校行事において，５年生では自然の教室については全員が振り返りを書くとともに活動の状況を評価するというように，１年間の学校行事を見通して重点化を図ることも考えられる。その際，一人一人の児童が振り返りをカードに記録したり，教師が補助簿に記載したりするなど，記録に残し，評価に生かすようにする。

６　小学校児童指導要録における特別活動の記録

各学校で定めた評価の観点を指導要録に記入した上で，各活動・学校行事ごとに，十分満足できる活動の状況にあると判断される場合に，○印を記入する。学習指導要領に示す特別活動の目標や学校として重点化した内容を踏まえ，下の記入例のように，より具体的に評価の観点を示すことが考えられる。

また，「キャリア・パスポート」の活用については，「キャリア・パスポート」を書くためだけに時間を使うのではなく，学校行事へ向けためあてと振り返りを表と裏に記述することができる学習カードを用いるなど，特別活動の実践の中で使用した学習カードを「キャリア・パスポート」とすることも考えられる。

【小学校児童指導要録（参考様式）様式２（第５学年）の記入例】

特　別　活　動　の　記　録

内　容	観　点　学　年	1	2	3	4	5	6
学級活動	よりよい生活を築くための知識・技能	○		○	○	○	
児童会活動	集団や社会の形成者としての思考・判断・表現		○			○	
クラブ活動	主体的に生活や人間関係をよりよくしようとする態度				○		
学校行事	余白		○	○		○	

全学年で共通した，各学校で定めた評価の観点を記入する。

評価の観点の変更がある場合を想定して，余白をとっておく。

児童会活動は第１学年から第６学年までの全児童で組織する児童会による異年齢集団活動であることから，低学年においても活動の状況を適切に評価する。

これはクラブ活動を第４学年から実施している学校の例である。学校規模等により下学年から実施する場合は実施しない学年について斜線を引く。

例えば，児童指導要録の「総合所見及び指導上参考となる諸事項」の欄に「自然の教室」で，めあてに向かって自分の役割を責任をもって行うとともに，友達と協力して野外活動に取り組んでいた。」と記入するなど，」○を付けた根拠を示すようにする。

十分満足できる活動の状況について

指導と評価に当たっては，各学校で「十分満足できる活動の状況」とは「児童のどのような姿」を指すのかを検討し，共通理解を図ってその取組を進めることが求められる。そのうえで，「目指す児童の姿」に照らして，十分満足できる活動の状況がみられた場合に指導要録に○を付ける。

なお，特別活動における十分満足できる活動の状況の評価に当たっては，特別活動の特質を踏まえ，児童のよさや可能性を積極的に評価することが大切である。

第２章　学習評価に関する事例について

１　特別活動の事例の特徴

第１編第１章２（４）で言及した学習評価の基本的な方向性を踏まえつつ，平成 29 年改訂学習指導要領の趣旨・内容の徹底に資する評価の事例を示せるよう，本参考資料（特別活動編）における各活動・学校行事の事例は，原則として以下のような方針を踏まえたものとしている。

特別活動は，全校又は学年を単位として行う活動があり，また，学級担任以外の教師が指導することもある。このため，本参考資料（特別活動編）においては，学習指導要領に示された各活動・学校行事ごとに工夫例を交えながら評価の進め方や留意点等について記述している。

○　１単位時間や年間の指導と評価の計画を示している

本参考資料で提示する事例は，いずれも，各活動・学校行事における議題や題材，活動の一つを例にとり，１単位時間の指導計画を示すとともに，「内容のまとまりごとの評価規準」に即して，本時における「目指す児童の姿」の例を具体的に示した。

また，評価結果を児童の学習や教師の指導の改善に生かすまでの一連の学習評価の流れを念頭において，事前から事後までの一連の学習過程を指導案の形で表し，「目指す児童の姿」を本時の展開の中で具体的に示している。

○　評価方法の工夫を示している

各活動・学校行事において，学級会ノートやワークシート，活動の振り返りなどを活用した評価方法や補助簿を活用した評価方法などを資料として提示するなど，特別活動の特質を踏まえ，評価方法の多様な工夫について示している。

また，特別活動は，全校又は学年を単位として行う活動があり，また，学級担任以外の教師が指導することもある。そこで，学級担任と担当する教師との連携の在り方についても示している。

○　総括する評価について示している

特別活動は，各教科のように観点ごとの評価（ABC）や評定はなく，指導要録において，観点を踏まえて，各活動・学校行事ごとに児童の取組を総括的に評価するものである。

学級活動については，学級活動（１）（２）（３）の各活動における評価を総括する仕方など，評価を総括する例を示すとともに，学習カードを活用した評価の工夫例や，年間を通じた評価結果を蓄積する工夫例についても示している。

２　各事例の概要について

事例１　学級活動（１）の指導の計画と評価

「がんばったね集会をしよう」（ア 学級や学校における生活上の諸問題の解決）（第５学年）

事例１は，学級活動（１）「学級や学校における生活づくりへの参画」の指導の計画と評価の事例である。第 5 学年の集会活動を議題とした話合い活動や実践活動について 1 単位時間の指導計画例を示すとともに，学級会ノートを評価の参考とした工夫例を示した。また，1 年間を通した評価結果を累積する評価の工夫例についても示した。

事例２　学級活動（２）の指導の計画と評価

「見直そう！ゲームの時間」（ア　基本的な生活習慣の形成）（第４学年）

事例２は学級活動（２）「日常生活や学習への適応と自己の成長及び健康安全」の指導の計画と評価の事例である。第４学年「見直そう！ゲームの時間」を題材として，１単位時間の指導計画を示すとともに，学習カードを評価の参考とした工夫例や，年間を通じた評価結果を累積する工夫例を示した。

事例３　学級活動（３）の指導の計画と評価

「６年生に向けて」（ア　現在や将来に希望や目標をもって生きる意欲や態度の形成）（第５学年）

事例３は学級活動（３）「一人一人のキャリア形成と自己実現」の指導の計画と評価の事例である。第５学年「6年生に向けて」を題材として，１単位時間の指導計画を示すとともに，学習カードや事前のアンケートを評価の参考とした工夫例や年間を通じた評価結果を蓄積する工夫例を示した。

◇「学級活動の（１）（２）（３）の評価を総括して児童指導要録に〇を付ける工夫例」

学級活動（１）（２）（３）を総括して児童指導要録に〇を付けるための工夫例を示した。

事例４　児童会活動の指導の計画と評価

「保健委員会」

事例４は，児童会活動の事例である。保健委員会の指導と評価の年間計画例と児童会集会活動の指導計画例を示すとともに，担当する教師の補助簿や児童の活動記録を評価に活用する工夫例を示すとともに，担当する教師から学級担任へ伝える工夫例について示した。

事例５　クラブ活動の指導の計画と評価

「ダンスクラブ」

事例５は，クラブ活動の事例である。ダンスクラブを例に，指導と評価の年間指導計画，クラブを楽しむ活動及びクラブ発表会の活動の流れと目指す児童の姿を示すとともに，教師の補助簿やクラブ活動ノートを活用した指導と評価の工夫例を示すとともに，担当する教師から学級担任へ伝える工夫例について示した。

事例６　学校行事の指導の計画と評価

「遠足・集団宿泊的行事」

事例６は，学校行事の事例である。学校行事の指導と評価の計画例を示すとともに，遠足・集団宿泊的行事の「自然の教室」の指導計画例と，学習カードを活用した評価の工夫例を示した。

※参考資料

◇学級活動（１）における発達の段階に即した活動形態別の児童の姿

◇学級活動年間指導計画

◇係活動の評価の工夫例

特別活動　　事例１
キーワード　「学級活動（１）の指導の計画から評価の総括まで」

議題	内容のまとまり
第５学年「がんばったね集会をしよう」	学級活動(1)「学級や学校における生活づくりへの参画」

１　学級活動(1)で育成を目指す資質・能力

○学級や学校の生活上の諸問題を話し合って解決することや他者と協働して取り組むことの大切さを理解し，合意形成の手順や活動の方法を身に付けるようにする。

○学級や学校の生活をよりよくするための課題を見いだし，解決するために話し合い，多様な意見を生かして合意形成を図り，協働して実践することができるようにする。

○生活上の諸問題の解決や，協働し実践する活動を通して身に付けたことを生かし，学級や学校における人間関係をよりよく形成し，他者と協働しながら日常生活の向上を図ろうとする態度を養う。

２　第５学年及び第６学年の評価規準

よりよい生活を築くための知識・技能	集団や社会の形成者としての思考・判断・表現	主体的に生活や人間関係をよりよくしようとする態度
みんなで楽しく豊かな学級や学校の生活をつくるために他者と協働して取り組むことの意義を理解している。 合意形成の手順や深まりのある話合いの進め方を理解し，活動の方法を身に付けている。	楽しく豊かな学級や学校の生活をつくるために，問題を発見し，解決方法について多様な意見のよさを生かして合意形成を図り，信頼し支え合って実践している。	楽しく豊かな学級や学校の生活をつくるために，見通しをもったり振り返ったりしながら，自己のよさを発揮し，役割や責任を果たして集団活動に取り組もうとしている。

３　指導と評価の計画（１時間）

児童が，学級や学校における生活の充実・向上を図るために，学級や学校での生活をよりよくするための課題を見いだし，「学級会」等で話し合い，合意形成を図り実践し，振り返ることができるようにすることが大切である。各学校は，このことを踏まえて参考に指導計画を作成することになる。評価の方法としては，児童の行動や変容など，教師の観察による方法が中心となるが，学級会ノートを活用した方法なども考えられる。ここでは，評価の視点を記載した学級会ノートを活用した例と補助簿を活用した例を紹介する。

次は，第５学年の議題「がんばったね集会をしよう」の１単位時間の指導計画例である。

第５学年○組 学級活動(１)指導案

○年○月○日（○）第○校時
指導者 ○○ ○○

１ 議題 「がんばったね集会をしよう」
　　ア　学級や学校における生活上の諸問題の解決
２ 議題について
（１）児童の実態（略）

・児童の学級生活における実態　　・これまでの学級活動の取組

・高学年の評価規準からみた話合い活動における課題や目指す方向

（２）議題選定の理由（略）

・議題が選定された背景や教師の指導観　・評価との関わりについて

３ 第５学年及び第６学年の評価規準（略）（※第２章参照）

４ 事前の活動

日時	児童の活動	指導上の留意点	◎目指す児童の姿 【観点】〈評価方法〉
○月○日 （　）	・提案ポストの議題案を確認し，選定する。 （計画委員会）	・議題選びの視点を念頭において選定することを指導する。	
○月○日 （　）	・議題を決定する。 （学級全員）	・計画委員会で選定した議題案をもとに，学級全員で決定する。	
○月○日 （　）	・活動計画を作成する。（提案理由，話合いのめあて，話し合うこと，決まっていること等を確認する） ・学級会の進行の仕方を確認する。 ・学級活動コーナーに掲示する。（計画委員会）	・実態を踏まえ，日時や場所などの条件を「決まっていること」として教師が設定する。 ・提案者の思いや願いを学級全体の共同の問題になるように，提案理由をしっかりと深めるようにする。	◎がんばったね集会への見通しをもち，意欲的に取り組もうとしている。 【主体的態度】 〈学級会ノート〉 ◎友達のがんばりを認め合う内容を学級会ノートに書いている。 【思考・判断・表現】 〈観察・学級会ノート〉
○月○日 （　）	・学級会ノートに自分の考えを記入する。 （学級全員）	・話し合うことや決まっていることが，共通理解できるように必要に応じて助言する。 ・提案理由を踏まえた自分の考えを記入できるようにする。	
○月○日 （　）	・学級会ノートに目を通し，書かれた意見を整理する。（計画委員会）	・出された意見から話合いの見通しがもてるように助言する。必要に応じて短冊に記入する。 ・学級会ノートに励ましの言葉等を記入し，話合いの意欲を高める。	写真

５ 本時の展開

（１） 本時のねらい

１年間の互いのがんばりを認め合う楽しい「がんばったね集会」をするために，集会の内容を考えることができるようにする。

（２） 児童の活動計画（別添）

（３） 教師の指導計画

話合いの順序	指導上の留意点	◎目指す児童の姿 【観点】〈評価方法〉
１ はじめの言葉 ２ 計画委員の自己紹介 ３ 議題の確認 ４ 提案理由や話合いのめあての確認 ５ 決まっていることの確認	・めあてをもって自分の役割に臨めるようにする。 ・提案者の思いや願いを全員が理解し，学級全員の問題であることを確認する。 話合いのめあて 「がんばったことを振り返ることができる集会の内容と工夫を考えよう。」 ・決まっていることを確認する。 ①日時…○月○日○時間目 ②場所…教室	提案理由・話合いのめあて・決まっていることについて，児童の活動計画に具体的に書かれている場合は，教師の指導計画には省略することも考えられる。

	③ゲームで１つ，それ以外で１つ （低学年の場合は，プログラムを示すことも考えられる。）	
6 話合い 話し合うこと① 「何をするか。」 話し合うこと② 「がんばりを認め合う工夫はどうするか。」 話し合うこと③ 「どんな係が必要か。」	・司会が進行に困った時は方向性を示唆し，児童の合意形成を方向付けるような助言はしない。 ・自治的活動の範囲を超えそうな場合は，適切に助言する。 ・必要に応じて，自分の意見に固執せず，納得したうえで考えを変えるなど，折り合いをつけて合意形成を図ることの大切さについて助言する。 ・これまでの集会の経験をもとに必要な係については事前に短冊を用紙しておき，今回新たに必要な係について話し合う。	◎これまでの集会活動の経験を生かしたり，友達の意見のよさを生かしたりして，がんばったね集会の内容や工夫について考えている。 ◎提案理由や話合いのめあてに沿って発言したり，友達の意見と比べて聞いたりしている。 【思考・判断・表現】 〈発言・観察〉
7 決まったことの発表 8 話合いの振り返り 9 先生の話 写真 10 おわりの言葉	・よかった点や課題について自己評価し，友達のよかった点などについて相互評価できるように助言する。 ・終末の助言では，「①前回の話合いと比べてよかった点，合意形成したことへの価値付けや称賛，②今後の課題，③計画委員へのねぎらい，④今後の見通しや実践に向けての意欲付け等」について簡潔に述べる。 ・提案理由を意識した発言や建設的な発言，意欲的に参加していた児童を称賛する。 ・実践への見通しをもち，意欲が高まるように言葉掛けを行う。	「十分満足できる活動の状況」を的確に見取るため，具体的な児童の姿をいくつか想定して記述する。 写真

6 事後の活動

日時	児童の活動	指導上の留意点	◎目指す児童の姿 【観点】〈評価方法〉
○月○日 （ ）	・決まったことを学級活動コーナーに掲示する。 ・役割分担が決まっていなければ，係の役割分担をする。	・学級会で決まったことの要点をまとめて書くよう計画委員に助言する。	◎がんばったね集会のめあてを意識して，友達と協力して取り組もうとしている。 【思考・判断・表現】 〈学級会ノート・観察〉 写真
○月○日 （ ）～	・係ごとに計画を立てて，協力して準備をする ・帰りの会などで係ごとに経過報告を行ったりする。	・係は必ず複数名で担当し，全員で協力して活動できるようにする。 ・準備の進捗状況を途中で確認し活動意欲の継続化を図る。	
○月○日 （ ）	・「がんばったね集会」を行う。	・集会のねらいを確認し，協力して実践できるようにしたり工夫して活動したりしている児童を称賛する。	
○月○日 （ ）	・一連の活動を振り返る。 写真	・自分の態度を振り返るとともにめあてに基づいた振り返りを行い，自分の役割を果たすことや友達のよかったところについても認められるように助言する。	◎がんばったね集会の成果と課題を振り返り，自他のがんばりに気付いたり，次の活動に生かそうとしたりしている。 【主体的態度】 〈学級会ノート・観察〉

4　観点別学習状況の評価の進め方

◇学級活動における児童のノートを活用した評価の工夫例

学級活動（１）の評価については，話合いのめあてや提案理由に沿って考え，発表し合っているかなど，児童の活動の様子を観察して見取ることが中心となるが，学級会ノートの記述も評価の参考にすることができる。〈資料①②〉のような学級会ノート（両面 A4）を使って，話合い活動だけではなく，実践までの一連の活動を振り返ることができるようにする方法もある。学級会ノートを活用し，一連の活動の振り返りを行うことで，成長の実感や新たな課題の発見につなげることができる。

〈資料①　学級会ノート（表）〉

第 15 回　学級会ノート　○月 ○日（　）○校時

5年 2組　番 名前 ○○○ ○○○

議題	5年生がんばったね集会をしよう
提案理由	5年2組のみんなで4月からがんばってきました。1年間のがんばりをみんなで認め合いながら楽しめる会をすることでさらにみんな仲良くなり、これからもがんばろうという気持ちになると思って提案しました。
決まっていること	日時・・・ 月 日の 時間目 場所・・・教室 ゲームはつ、それ以外につ。
司会グループ	司会 ／ 黒板記録 ／ ノート記録
話し合うこと	自分の意見　（理由もしっかり書こう）
(1) 何をするか。	意見 思い出すごろく 理由 すごろくのマスに5年2組ががんばってきたことを書くといいと思うから。
(2) がんばりを認め合う工夫はどうするか。	意見 音楽会で歌った曲を歌う 理由 音楽会に向けてたくさん練習した思い出の曲をみんなで歌えば、みんなのがんばりを思い出すことができるから。
(3) どんな役割が必要か。	意見 プログラム係 理由 前もってプログラムを作って掲示して、みんなのワクワク感を高めたいから。

・提案理由や話合いのめあてにそって、話し合うことができましたか。	◎ ○ △
・友達の意見のよいところを考えながら聞くことができましたか。	◎ ◎ △
・自分の意見を進んで発表できましたか。	◎ ○ △
・決まったことや自分がこれから何をしたらよいのか分かりましたか。	◎ ○ △
・がんばりを認め合う工夫について考え、みんなでまとめることができましたか。	◎ ○ △

☆今日の話合いをふり返って

提案理由を意識して話し合うことができました。　さんの「思い出クイズ」をすごろくのマスに取り入れるという意見のよいところを合わせて、みんながなっとくするまとめ方で決めることができたのでよかったです。

☆決まったことや自分の役わりについて、これからがんばりたいこと

プログラム係になったので、協力して楽しいプログラムをつくりたいです。みんなで思い出すごろくを楽しんでさらにみんなで仲良くなりたいです。

【知識・技能】
提案理由の「がんばりを認め合う」という活動の意義を理解しその達成のために意見を考えている様子から，「十分満足できる活動の状況」であると考えられる。

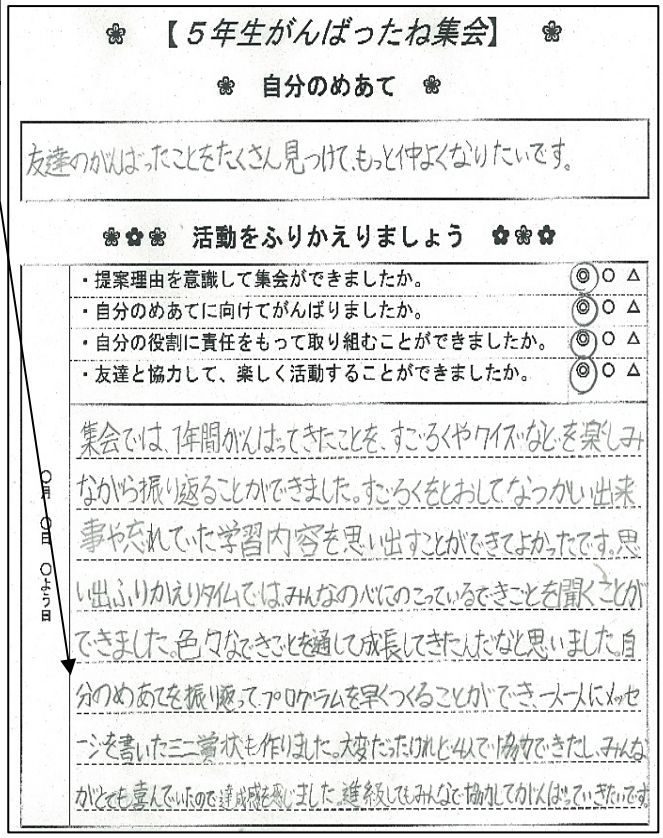
写真

話合い活動の振り返りとして，３段階で振り返ることで，児童自身の自己評価の力を高めたり，【思考・判断・表現】の評価の参考にしたりする。

【思考・判断・表現】
解決方法について多様な意見のよさを生かして合意形成を図ろうとしている様子から，「十分満足できる活動の状況」であると考えられる。

写真

〈資料②　実践の見通し・振り返り（裏）〉



【主体的態度】
自他の取組や実践を振り返り，自己のよさを発揮し，役割や責任を果たして取り組もうとしている様子や友達と協力して準備や活動に取り組んでいる様子から，十分満足できる活動の状況であると考えられる。

５　観点別学習状況の評価の総括

次に示した〈資料③〉は，どの議題にも共通する項目を定めて評価し，機会を捉えて，顕著な事項を見とって記録した結果が，学期や年間を通して一覧で見られるようにした評価補助簿の例である。学級会ノートにおける事前の意見や実践後の振り返り等の記述を参考にしたり，話合いや実践の様子を観察したりしながら，機会を捉えて評価する。その際，十分満足できる活動の状況について学校で共通理解を図ることが求められる。そのためには，次のような評価補助簿を活用して評価することが考えられる。

〈資料③ 学級活動⑴における評価補助簿の例〉

知識・技能の評価
学級会ノートの記述から提案理由を理解している様子や計画委員会の活動のから話合いの進め方を理解し身に付けているか等を見取る。

思考・判断・表現の評価
話合いの様子から，出された意見のよさを生かしたり，改善策を考えたり，組み合わせたりして考えているか等を見取る。

主体的態度の評価
実践の様子から，自分のよさを生かし役割に取り組んだり，友達と協働して取り組んだりし活動しているか等を見取る。

	名前	知・技 ・話合いの進め方，まとめ方を理解している。	思・判・表 ・意見のよさを生かしたり，創意工夫したりして，発言したりしている。	主体的態度 ・決定したことや自分の役割を友達と協働し，意欲的に取り組もうとしている。	メモ	総括
					どのような姿を見取るのかを補助簿に具体的に示しておくことも考えられる。 学活⑴における特記事項をメモする。	
1	A	○	○	○○	*7/16 集会の準備を休み時間に一生懸命行い，全員分のメダルを作っていた。*	◯
2	B	○	○	○	*9/17 学級会では，みんなが納得するアイデアを改善策として発表していた。*	◯
3	C					
4	D			○		
5	E	○○	○○○	○○	*6/15 役割に見通しをもって準備をしたり休み時間にクイズを考えたりし，帰りの会でみんなを楽しませ主体的に活動した。*	○

一連の学習過程を通して、児童の様子の観察やノートの記述等を参考にしながら、機会を捉えて評価する。その都度、「十分満足できる活動の状況」の場合、○を付けたり、メモ欄にその様子の記述に日付を加えてメモを書いたりする。

特別活動　　事例２
キーワード　「学級活動（２）の指導の計画から評価の総括まで」

題材	内容のまとまり
第４学年「見直そう ゲームの時間」	学級活動「（２）日常の生活や学習への適応と自己の成長及び健康安全」

１　学級活動（２）で育成を目指す資質・能力

○ 日常の生活や学習への適応と自己の成長及び健康安全といった，自己の生活上の課題の改善に向けて取り組むことの意義を理解するとともに，そのために必要な知識や行動の仕方を身に付けるようにする。
○ 自己の生活上の課題に気付き，多様な意見を基に，自ら解決方法を意思決定することができるようにする。
○ 自己の生活をよりよくするために，他者と協働して自己の生活上の課題の解決に向けて粘り強く取り組んだり，他者を尊重してよりよい人間関係を形成しようとしたりする態度を養う。

２　第３学年及び第４学年の評価規準

よりよい生活を築くための知識・技能	集団や社会の形成者としての思考・判断・表現	主体的に生活や人間関係をよりよくしようとする態度
日常生活への自己の適応に関する諸課題の改善に向けて取り組むことの意義を理解し，よりよい生活を送るための知識や行動の仕方を身に付けている。	日常生活への自己の適応に関する諸課題に気付き，解決方法などについて話し合い，自分に合ったよりよい解決方法を意思決定して実践している。	自己の生活をよりよくするために，見通しをもったり振り返ったりしながら，意欲的に課題解決に取り組み，他者と協力し合ってよりよい人間関係を形成しようとしている。

３　指導と評価の計画

学級活動（２）日常の生活や学習への適応と自己の成長及び健康安全においては，粘り強く自己の課題解決に向け取り組めるようにし，児童一人一人に自己指導能力を育成することをねらいとしている。ねらいに迫るためには現在の自分の課題を見つめ，自己の成長のために学級全体で話し合い，自分に合った具体的な解決方法や目標を意思決定し，主体的に実行できるようにする一連の活動が大切である。評価の方法としては，児童の行動や変容など，教師の観察による方法が中心となるが，学習カードを活用した方法なども考えられる。ここでは，評価の視点を記載した補助簿を活用した例と学習カードを活用した例を紹介する。

第４学年○組　学級活動（２）指導案

○月○日（○）第○校時
教諭　○○　○○
養護教諭　○○　○○

１　　題材　「見直そう　ゲームの時間」
　　ア　基本的な生活習慣の形成

２　　題材について（略）
（１）児童の実態（略）
・本題材に関わるアンケートの結果を踏まえた児童の実態
・これまでの学級活動の取組
・中学年の評価規準からみた実態と目指す方向

（２）題材設定の理由（略）
・本題材設定の理由
・本題材における指導の工夫と評価との関わり

３　第３学年及び第４学年の評価規準（略）

４　事前の指導

日時	児童の活動	指導上の留意点	◎目指す児童の姿 【観点】〈評価方法〉
○月○日 （　）	アンケートに記入する。	・ゲームに費やす時間やゲームのやりすぎで困った経験などを調査し，表やグラフにまとめる。 ・これまでの生活を振り返る時間を設け，課題への意識を高められるようにする。	◎ゲームに関する自己の生活を進んで振り返ろうとしている。 【主体的態度】〈アンケート〉

５　本時のねらい
ゲームに集中しすぎてしまうことが学校生活に影響を与えることを知り，けじめをつけて利用することができるようにする。

６　本時の展開

	児童の活動	指導上の留意点		資料	◎目指す児童の姿 【観点】〈評価方法〉
		T１（学級担任）	T2（養護教諭）		
導入 つかむ (10)	１　事前のアンケートを見て気付いたことを話し合う。 ２　ゲームのやりすぎによる問題点を考える。	・ゲームに関する学級全体の課題を確認し，課題解決への必要感を高める。	・スライドでアンケート結果を表示する。	集計結果	
展開 さぐる	３　ゲームをやめられない原因を考える。 ４　ゲームのやり過ぎによる体への影響を知る。	・自分の意志の弱さでややめられない以外にも，ゲームには，集中させる仕組みがあることを知る。 ・ルールを守ってゲームを利用することの大切さを説明する。	・視力の低下や睡眠不足が学力にも影響することなどを説明する。	体への影響に関する掲示資料	

T１・T２の役割を明確にするとともに，ともに授業を考えることが大切である。

ゲームの時間を守れるようにするためにどのようにしたらよいか考えよう

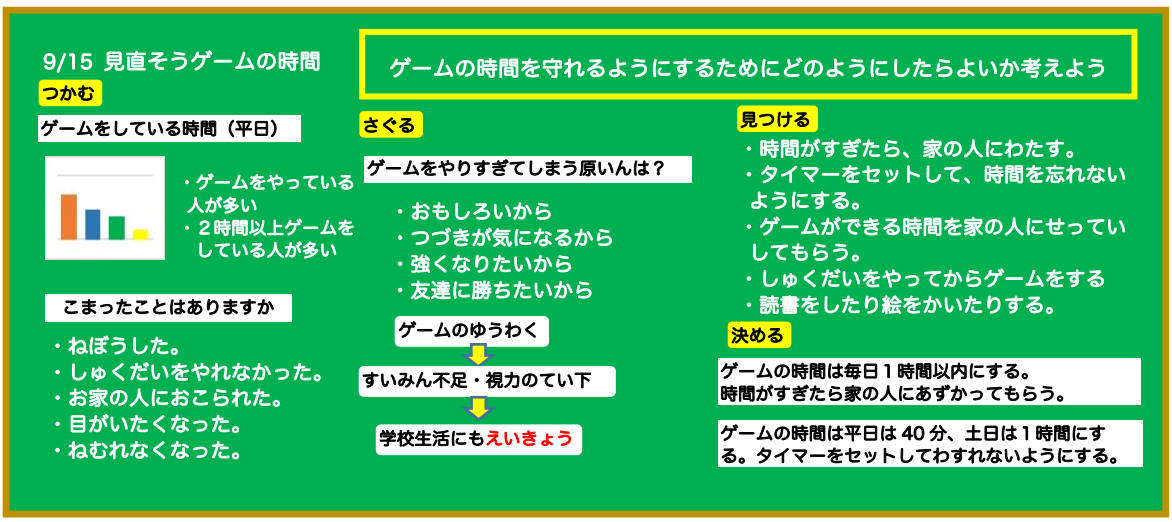
題材を児童に分かる言葉に置き換えて，本時のめあてとして提示した例

見つける (25)	5　ゲームのやり過ぎを改善する方法について話し合う。	・やりすぎないようにするにはどのようにすればよいか，自分の経験を想起したり，友達の工夫を聞いたりして，具体的な方法を考えられるようにする。	写真 「十分満足できる活動の状況」を的確に見取るため，評価規準をもとに具体的な児童の姿を想定していくつか記述する。		◎どうしたらゲームのやり過ぎを改善できるのかを考えている。 【思考・判断・表現】〈観察〉
終末 決める (10)	6　これからの生活におけるゲームの約束について，個人目標を決める。 （意思決定）	・話合いの結果を参考に，自分に合った具体的な目標になるよう，助言する。 ・数名に発表してもらい，目標の修正や実践の参考にできるようにする。	・机間指導を行い必要に応じて具体性のある目標が立てられるよう助言する。 【努力を要する活動の状況と判断される場合】 児童の家庭での様子を聞きながら、板書に掲示してある具体的な方法や友達の発表を参考に目標を設定するよう助言する。	学習カード	◎自分の課題に合った具体的な目標を決めている。 【思考・判断・表現】〈学習カード〉

7　事後の指導

日時	児童の活動	指導上の留意点	◎目指す児童の姿 【観点】〈評価方法〉
○月○日 （　）～ ○月○日 （　）	自分の立てた目標や取組について振り返る。	・事後に振り返る機会を設定し，実践化に向けて継続した取組になるように助言する。	◎今後の生活におけるゲームの使い方への見通しをもち，課題を改善しようとしている。 【主体的態度】〈学習カード〉
○月○日 （　）	保護者の思いを知る。	・朝の会等で，保護者の感想を知る機会を設け，実践の継続化を図る。	

8　板書計画



４　評価方法の工夫例

（１）学習カードを活用した評価の工夫例

次の資料①は，本時の活動から【思考・判断・表現】，事後の活動から【主体的態度】を見取るための評価カードの工夫例である。

〈資料①学習カード〉

「見直そう　ゲームの時間」　４年 1 組　名前＿＿＿＿＿＿

１　今日の授業でわかったこと

ゲームをやりすぎると目がわるくなったり、夜にねむれなくなったりして学校生活にもわるいえいきょうがあることがわかりました。

２　わたしが決めた目標

【なにを・どのように】

・ゲームをする時間を平日は40分以内にして土日は1時間以内にします。
・ふとんの中ではゲームをしないようにするために、ゲームはリビングにおきます。

【目標のしゅう正】

※自己の取組を振り返るとともに，目標達成に向けての手立てを再度，考える機会を設けることも考えられる。（資料②）

４　自分の活動をふりかえろう。（よくできた◎　できた○　できなかった△）

9月11日	9月12日	9月13日	9月14日	9月15日	9月16日	9月17日
○	△	○	△	◎	◎	◎

５　活動して思ったこと、感じたことを書きましょう。

9月18日（水）

はじめはがまんするのがとてもたいへんでした。でも、ゲームをやらなかったらほかの遊びを見つけました。弟とトランプをしたり、絵をかいたりして遊んだら楽しかったです。ほかの遊びも見つけたいです。

６　先生から

がまんしてできて立派ですね。ゲームいがいのあそびを見つけられてよかったですね。これからもがんばりましょう。

※【知識・技能】について
　指導すべき知識・技能が明確な場合は，学習カードに評価項目を設けて見取ることも考えられる。

【思考・判断・表現】
　課題解決に向け「なにを」「どのように」といった視点で，めあてを書くことで，実現可能な具体的な目標になっているかを見取る。この児童の場合，時間や方法などを具体的に決めることができていることから十分満足できる活動の状況であると考えられる。

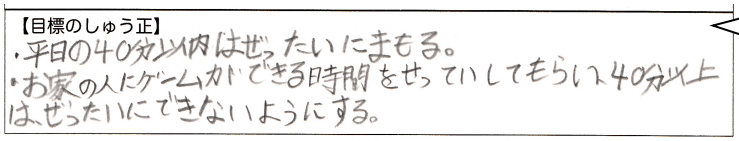
自己評価
　日常生活の様子を加味しながら，児童の自己評価をもとに取組を称賛する。

【主体的態度】
　取組を振り返り，次の生活に生かそうとしているかを見取る。ゲーム以外の楽しみを見つけることができたと書いてあることから，十分満足できる活動の状況であると考えられる。

（２）目標の修正について

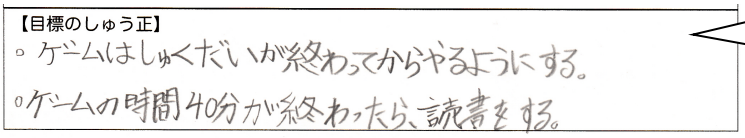
次の資料は，目標の修正に取り組み，達成に向けた手立てを再設定した例である。学習カードを活用し，最後まで実践しようとする意欲を高めることが大切である。

【資料②目標を修正した学習カードの例１】



この児童の場合，目標の修正をするとともに達成に向けて保護者に支援してもらう手立てを考えている。

【資料②目標を修正した学習カードの例２】



この児童の場合，実践していく中で，ゲーム以外に何ができるかを具体的に考え、目標を追加している。

（３）年間を通じた評価結果を蓄積する工夫例

次の資料は，教師の観察や学習カードの記入を参考に，機会を捉えながら評価し，それを記録するためのものである。ここでは，学級活動（２），（３）においては，「現在の生活上の課題」「現在及び将来を見通した生活や学習の課題」という違いはあるが，基本的な学習過程が同じであることを踏まえ，同じ補助簿を用いて，評価結果を蓄積していく例である。

〈資料③ 補助簿の例〉

知識・技能の評価
学習カードの記述や実践の様子から生活や学習に必要な知識・技能を身に付けているか等を見取る。

思考・判断・表現の評価
話合いで出された考えを踏まえ，自分の課題に合った具体的なめあてを立てているか等を見取る。

主体的態度の評価
実践の様子や実践後の様子から，見通しをもって活動しようとしているか粘り強く活動しようとしているか等を見取る。

		知・技	思・判・表	主体的態度	メ　モ	総括
1	A	○	○	○	7/15 自分に合っためあてを立てている。	○
				○	4/11　4年生の生活を見通した目標を設定していた。	
			○○	○	5/13 具体的なめあてを設定し，進んで挨拶をしていた。 9/11 ゲームをする時間について具体的な行動目標を設定していた。	○
4	D	○			11/13　家庭学習ノートの使い方が向上した。	
5	E		○		12/21 インフルエンザの予防方法を理解し手洗いを心がけている。	

学級活動（２）「見直そう ゲームの時間」において、自分の課題に合った具体的なめあてを設定するなど，十分満足できる活動の状況だったため○が付いている。

【メモによる評価の蓄積】
○を付けて評価した児童の姿を記録しておくことも考えられる。メモを蓄積することで，総合所見及び指導上参考となる諸事項に書く際に生かすことができる。

【学級活動（２）（３）の総括について】
総括して○を付ける際には，学校で統一した方法を予め設定しておくことが必要である。例えば，上記の表のように知識・技能に○が付いていなくても，思考・判断・表現，主体的態度において，２つ○が付いている場合、総括においても○を付けることも考えられる。

特別活動　事例３
キーワード　「学級活動（３）の指導の計画から評価の総括まで」

題材	内容のまとまり
第５学年「６年生に向けて」	学級活動「（３）一人一人のキャリア形成と自己実現」

１　学級活動（３）で育成を目指す資質・能力

○働くことや学ぶことの意義を理解するとともに，自己のよさを生かしながら将来への見通しをもち，自己実現を図るために必要なことを理解し，行動の在り方を身に付けるようにする。

○自己の生活や学習の課題について考え，自己への理解を深め，よりよく生きるための課題を見いだし，解決のために話し合って意思決定し，自己のよさを生かしたり，他者と協力したりして，主体的に活動することができるようにする。

○現在及び将来にわたってよりよく生きるために，自分に合った目標を立て，自己のよさを生かし，他者と協働して目標の達成を目指しながら主体的に行動しようとする態度を養う。

２　第５学年及び第６学年の評価規準

よりよい生活を築くための知識・技能	集団や社会の形成者としての思考・判断・表現	主体的に生活や人間関係をよりよくしようとする態度
希望や目標をもつこと，働くことや学ぶことの意義を理解し，自己のよさを生かしながら将来への見通しをもち，自己実現を図るために必要な知識や行動の仕方を身に付けている。	希望や目標をもつこと，働くことや学ぶことについて，よりよく生きるための課題を認識し，解決方法などについて話し合い，自分に合った解決方法を意思決定して実践している。	現在及び将来にわたってよりよく生きるために，見通しをもったり振り返ったりしながら，自己のよさを生かし，他者と協働して，自己実現に向けて自主的に行動しようとしている。

３　指導と評価の計画

学級活動「（３）一人一人のキャリア形成と自己実現」は，児童が，将来に向けた自己実現を目指してよりよく生活するための課題に気付き，解決方法などについて話し合い，自分に合った解決方法を意思決定して実践していくことができるようにすることが大切である。

次は，第５学年　学級活動（３）「６年生に向けて」（ア現在や将来に希望や目標をもって生きる意欲や態度の形成）の例である。

第５学年○組　学級活動（３）指導案
○年１月○日（○）　第○校時
指導者　○○　○○

１　題材　「６年生に向けて」
　　ア　現在や将来に希望や目標をもって生きる意欲や態度の形成

２　題材について
（１）児童の実態（略）
・児童の学級生活における実態
・これまでの学級活動の取組
・高学年の評価規準からみた実態と目指す方向
（２）題材設定の理由（略）
・題材設定理由

・本題材における指導の工夫と評価との関わり

3　第５学年及び第６学年の評価規準　（略）

4　事前の指導

日時	児童の活動	指導上の留意点	◎目指す児童の姿 【観点】〈評価方法〉
○月○日 （　）	５年生のこれまでを振り返ったり，６年生へ向けた期待感を想起したりするアンケートに記入する。	・「６年生に向けて」のアンケートを用意し，５年生の生活を振り返った上で，６年生へ向けた期待感を想起できるようにする。 ・「キャリア・パスポート（２学期を振り返りましょう）」等を活用し，これまでの自分の成長に気付けるようにする。	◎アンケートに答えることで，５年生の生活を振り返ったり，６年生へ向けての期待感を抱いたりして，学習への見通しをもとうとしている。 【主体的態度】〈アンケート〉

5　本時のねらい

最高学年になっていくための見通しをもち，そのために必要なことについて話し合い，自分に合っためあてを立てて実践できるようにする。

6　本時の展開

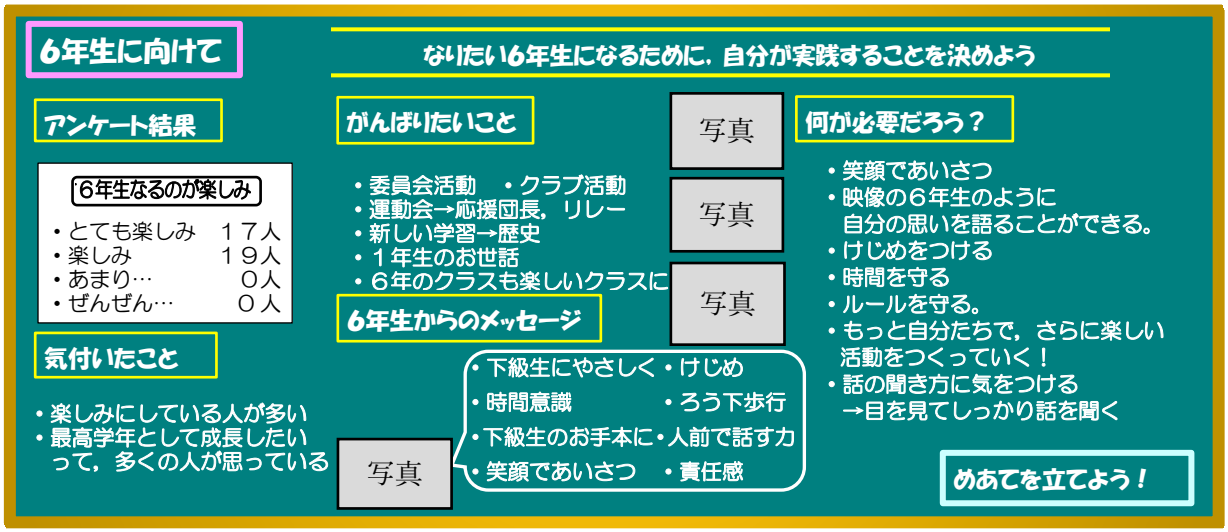
	児童の活動	指導上の留意点	資料	◎目指す児童の姿 【観点】〈評価方法〉
導入 つかむ (5)	１　アンケート結果から，６年生になるにあたっての自分たちの思いについて話し合う。	・アンケート結果をもとにして，６年生に向けて期待感を抱いていることに気付けるようにする。 ・キャリア・パスポートをもとに自分たちの成長を想起できるようにする。	・アンケート結果の表 ・キャリア・パスポート	
	なりたい６年生に向けて，自分が実践することを決めよう			
展開 さぐる (10)	２　６年生になったら，どんなことをがんばっていきたいのかについて話し合う。 ・委員会活動 ・クラブ活動 ・運動会 ・歴史の学習 ・更に成長したい ・友達を増やす ・１年生のお世話	・６年生が活躍していた場面などの写真を活用し，最高学年として自覚と責任をもって行動する場面が増えることに気付けるようにする。	・６年生が活動する様子の写真	
みつける (20)	３　６年生からのメッセージ映像を見る。 写真	・６年生からのメッセージ映像を用意し，「６年生としての心構え」や「自分たちが努力してきたこと」，「励ましのメッセージ」などについて語ってもらうことで，５年生が６年生へと成長していくために必要なことに気付くことができるようにする。	・６年生からのメッセージ映像	

	4　どんな６年生になりたいか，そのためにどんなことが必要かを話し合う。	・学習カードを用意し，一人一人が考えた上で話し合うことができるようにする。 写真	・学習カード 必要に応じてグループで付箋などを使って考えを出し合った上で，全体で話し合うなどの方法も考えられる。	◎なりたい６年生の姿に向けて話し合い，自分が実践することを意思決定している。 【思考・判断・表現】 〈観察・学習カード〉
終末 決める (10)	5　これから６年生になるまでに自分が実践することを決め，伝え合う。	・ここまでの話合いで出された意見などを生かして，自分に合っためあてを学習カードに記入できるようにする。 写真	・学習カード	

7　事後の指導

日時	児童の活動	指導上の留意点	◎目指す児童の姿 【観点】〈評価方法〉
○月○日 (　) から	意思決定しためあてを意識して実践する。	・一人一人のめあてを掲示するなどして，実践への意欲付けとなるようにする。	◎意思決定したことを実践している。 【思考・判断・表現】 〈観察〉
年度末までの各月末の帰りの会	実践について振り返る。	・振り返りを行う機会を設定し，継続した実践になるようにしたり，必要に応じて新たにめあてを立てて取り組んだりできるようにする。	◎実践を振り返り，現在及び将来に向けての学校生活や日常生活に生かそうとしている。 【主体的態度】 〈学習カード〉

8．板書計画



4　評価方法の工夫例

（１）学習カードを活用した評価例

学級活動（３）の評価については，観察が中心となるが，次のような学習カードを活用して評価の参考にすることも考えられる。

〈資料①　「６年生に向けて」学習カード〉

5年生　学級活動(3)「6年生に向けて」学習カード

1　月　9　日　　5年　1　組

★６年生に向むけて、自分たちに必要なことは、どんなことだろうか。

たてわり活動も引き継いだし、６年生になっていくあたって、下級生にやさしくせっすることが大事だと思います。知っている子には、やさしく出来ているけど、関わったことがない子にはやさしくせっすることができていないと思います。だから、まずはいろいろな人と自分から積極的に関わっていくことが大切だと思います。

○めあて～６年生に進級するために、学年末までに自分が努力することを書きましょう。

朝、下級生にも、自分から進んで笑顔であいさつをする！

★めあてに対する自分の思い！！

下級生に自分から積極的に関わっていくためには、あいさつが大切だと考えました。あいさつをされてイヤな人はいないと思うし、明るくあいさつができる６年生になりたと思います。下級生にやさしくするための第一歩として笑顔であいさつしたいです。

★月ごとに実践を振り返りましょう。

1月（ ◎ ○ △ ）	2月（ ◎ ○ △ ）	3月（ ◎ ○ △ ）
知っている子には、自分から進んであいさつできた。知らない子には、あまりできなかったので、挑戦していく。 がんばってますね。	２月は、いろいろ忙しくて、あまり意識して実践できなかったので、６年生になるにあたって意識して取り組んでいきたい。	もうすぐ６年生なので、意識的に取り組めた。笑顔であいさつを返してくれてうれしかった。

★実践を振り返って

あいさつを意識してやっていると笑顔であいさつを返してくれるのでうれしいです。６年生になったら、１年生のお世話もするので、笑顔のすてきなお姉さんになれたらいいなって思います。なぜなら、私も１年生の時におせわになったお姉さんのやさしい笑顔を覚えているからです。

★おうちの人から

あと少しで６年生になるんですね。幼かったゆみ子が、ちゃんと先のことを考えて、成長していこうとしている、そのことが、とてもうれしいです。寝起きでも笑顔であいさつしようね。

先生から

ゆみ子さんなら笑顔のすてきなお姉さんになれると思いますよ。あいさつも継続してがんばってください。応援しています。

この学習カードを「キャリア・パスポート」とすることも考えられる。

【知識・技能】の評価をする場合は，「自分たちに必要なこと」の記述から，よりよい自分へ向けて努力していく意義の理解等を見取ることも考えられる。

【思考・判断・表現】
自分から進んで笑顔であいさつをすると，具体的な行動目標を意思決定することができていると考えられる。また，下級生と積極的に関わるための方法として笑顔であいさつをすることが大切であると考えていることから，十分満足できる活動の状況であると考えられる。

【思考・判断・表現】
学級活動（３）のアにおいては，実践期間が比較的長くなることも考えられる。そこで，月ごとに振り返りの場面を設定し，簡単に記述することも効果的である。３月の段階で，あいさつの喜びも感じ取っていることから，十分満足できる活動の状況であると考えられる。

特別活動の評価は，「指導に生かす評価」が大切である。そこで，担任のコメント欄を設けるなど，児童のよさを認め，伸ばすようにすると効果的である。
また，家庭からのコメント欄を設けることで，家庭の理解や協力を得て，児童の励みになるようにすると効果的である。

【主体的態度】
「実践を振り返って」で，自分が１年生だったときの思いを想起しながら，こういう人になりたいという思いを抱き，自分のめあてを実践しようとしていることから，十分満足できる活動の状況であると考えられる。

（２）事前のアンケートを活用して【主体的に生活や人間関係をよりよくしようとする態度】の評価を行う場合の例

【主体的に生活や人間関係をよりよくしようとする態度】の評価においては，見通しをもって学習や実践に取り組むとともに，振り返りを通して次へ生かそうとしているかどうかを評価することが考えられる。

アンケートを評価に活用しようとする場合は，アンケートに記述欄を設けるなどして，本題材に照らして自分の生活を振り返り，改善へ向けての見通しをもっているかを見取ることが考えられる。その際，アンケートのみで評価をするのではなく，実践の様子や，実践後の振り返りと合わせて総合的に評価することが望ましい。

【主体的態度】
この児童は，６年生になるにあたっての期待感を抱いているとともに，今年の６年生のように，運動会でリーダーシップを発揮し，よりよい運動会をつくっていきたいと，次の活動に向けて意欲をもって取り組もうとする姿勢が見られることから，十分満足できる活動の状況であると考えられる。

〈資料②　「６年生に向けて」アンケート〉

学級活動(３)「６年生に向けて」アンケート

5年　組　番 名前

３ヶ月後には、６年生になりますね。そこで、次のアンケートに答えてください。

1．６年生になるのは楽しみですか。

ア．すごく楽しみ
イ．楽しみ
ウ．あまり楽しみではない
エ．楽しみではない

ア

2．１で、答えた理由を教えてください。

６年生は、最高学年として、大変なこともあると思うけど、１年生のお世話をしたり、委員会活動で５年生をサポートする立場になるので自分もお世話になった６年生のようになりたいと思うからです。

3．今年の６年生で「すごいな」と感じたことはありますか。

ア．ある
イ．ない

ア

4．３で、「ある」と答えたのは、どんなことですか。

応援団長の○○さんがすごいなって思いました。女子でも応援団長になって、白組をリードして大きな声で応援していて、応援賞をとった時に、涙を流しながら笑顔だったのがとってもかっこよかったです。

5．６年生になったらがんばりたいと思うことは、何ですか。自由に書いてください。

団長になるのは難しいとは思うけど、私も応援団になって、自分の組をリードして、運動会を盛り上げたいと思っています。今年の６年生に、負けないくらいの運動会を私たちもつくっていきたいと思います

（３）年間を通じて蓄積した評価結果を総括する工夫例

次の資料は，前掲の指導計画に基づいて，児童を見とり，児童指導要録の評価に学校として一貫性をもたせるために，学級活動の内容ごとに作成した補助簿の例である。ここでは，学級活動（３）の補助簿の例を示す。

〈資料③　学級活動（３）における評価補助簿の例〉

どのような姿を見取るのかを補助簿に具体的に示しておくことも考えられる。

学級活動(３)　児童　見とりシート　5年1組

番号	観点 / 氏名	よりよい生活を築くための知識・技能 生きること・働くこと・学ぶことの意義に気付いている。	集団や社会の形成者としての思考・判断・表現 自分に合った具体的な行動目標を書いて実践している。	主体的に生活や人間関係をよりよくしようとする態度 見通しをもったり、振り返ったりして行動しようとしている。	メモ欄 ア現在や将来に希望や目標をもって生きる意欲や態度の形成 イ社会参画意識の醸成と働くことの意義の理解 ウ主体的な学習態度の形成と学校図書館等の活用	(3)の総括
1	A．K	○	○	○	7/10 イ掃除当番	
2	A．H		○			
3	A．O		○	○		
4	K．I				※めあての書き方を指導	
5	G．Y	○	○		4/12 ア係活動の充実を視点にめあて	
6	S．M					
7	S．H	○	○	○	5/7 ア運動会の係で役割を意識し行動	○
8	S．K	○	○	○	1/9 ア最高学年になる自覚ある行動。	○
9	H．Y		○		5/7 ア５月めあての意味を理解して書けた	
39	W．M		○ ○	○	9/25 ウ夢と結び付けてめあてを立てた	○

観点によって，例えば【思考・判断・表現】は，毎回見とり，【主体的態度】は，年間の児童の変容を踏まえて，年度末にまとめて評価するなど弾力的に評価することも考えられる。

総括して○を付ける際には，例えば「観点別の○の数が３個以上で付ける」などといった，基準を学校として予め設定しておくことも考えられる。

毎回，すべての観点について全員を見取ることは困難であることから，本題材で見取る児童を予め決めておくことも考えられる。

２つの題材で十分満足できる活動の状況が見られた場合，○を２つ付けることも考えられる。

学級活動の（１）（２）（３）の評価を総括して児童指導要録に○を付ける工夫例

児童指導要録には，学級活動（１）（２）（３）のそれぞれの実践をもとにした評価を総合的に判断して，学級活動として十分に満足できる活動の状況であると判断できる児童に○を付けることになる。ここでは，学級活動（１）及び（２）（３）で使用した補助簿をもとに学級活動全体を総括して評価し，児童指導要録に○を付ける方法の例を示す。

学級活動（１）補助簿

		知・技	思・判・表	主体的態度	メモ	総括
	名前	・話合いの進め方，まとめ方を理解している。	・意見のよさを生かしたり，創意工夫したりして，発言したりしている。	・決定したことや自分の役割を友達と協働し，意欲的に取り組もうとしている。		
1	A	○	○	○○	*7/16 集会の準備を休み時間に一生懸命行い，全員分のメダルを作っていた。*	○
2	B	○	○	○	*9/17 学級会では，みんなが納得するアイデアを改善策として発表していた。*	○
3	C					
4	D			○		
5	E	○○	○○○	○○	*6/15 役割に見通しをもって準備をしたり休み時間にクイズを考えたりし，帰りの会でみんなを楽しませ主体的に活動した。*	○

学級活動（２）（３）補助簿

		知・技	思・判・表	主体的態度	メ　モ	総括
1	A	○	○	○	7/15 自分に合ったためあてを立てている。	○
2	B			○	４/11　４年生の生活を見通した目標を設定していた。	
3	C		○○	○	5/13 具体的なめあてを設定し，進んで挨拶をしていた 9/11 ゲームをする時間について具体的な行動目標を設定していた。	○
4	D	○			11/13　家庭学習ノートの使い方が向上した。	
5	E		○		12/21 インフルエンザの予防方法を理解し手洗いを心がけている。	

児童指導要録に○を付ける例

	(1)	(2)(3)	指導要録
名前			
A	○	○	○
B	○		
C		○	
D			
E	○		○

A児のように，学級活動（１）及び（２）（３）のどちらも○となった場合，児童指導要録に○を付ける。

E児のように，学級活動（２）（３）の補助簿において総括に○を付けていない場合でも，学級活動（１）の活動において，創意を生かして話し合ったり，友達と協働し，意欲的に取り組んだりしていたことから，児童指導要録に○を付けることも考えられる。